

カリキュラムツリー (必要な看護実践能力および育成する能力に対応する科目一覧)

高度化、多様化する医療に対応できる
質の高い看護実践能力を養うカリキュラムを展開しています。

最適な生活(well-being)への健康支援				
育成する能力 必要な看護実践能力	生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係の構築ができる能力	多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、柔軟な対応ができる創造的思考力	看護専門職として研鑽し続けるために必要な基礎的研究能力	保健医療福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働できる能力
能力発展させる	●看護倫理		●看護課題研究 ●看護研究方法論 ●看護理論	●包括的情報システム論 ●看護管理 ●選)災害看護 ●選)国際看護 ●選)医療安全管理
				●統合看護学実習 ●口腔機能援助論 ●well-being care統合 ●選)リハビリテーション看護
				●在宅高齢者ケア ●選)家族看護論
健康課題に対応する能力	Focus 独自の学び ▶ “口腔医学”を取り入れたカリキュラム 学園グループである福岡歯科大学や福岡歯科大学医歯学総合病院の教育研究実績を生かし、「口腔医学」を取り入れた新しい看護学を展開。呼吸やコミュニケーション、病気の予防において口腔が果たす役割の重要性に注目し、口腔機能の維持・回復や全身の健康支援に貢献できる実践力を養うカリキュラムを設けています。 ●口腔アセスメント演習 看護学に口腔医学を取り入れ、口腔を起点とした健康支援スキルを修得  ※口腔医学とは、様々な科学的根拠を基に、歯周病などの口腔疾患が全身の健康と密接に関連することを明らかにし、医療現場における口腔ケアの推進と、その重要性を追求するための学問です。			
	Focus 自由科目 ▶ 「物理」、「化学」、「生物」、「数学」を看護学との関連で学び直す 医療機器や薬物の管理に関わる看護技術において、その基礎となる物理、化学、生物、数学は各科目を履修するうえで大切な科目となります。本学では1年次の自由科目に「看護のための物理学」等を設置し、高校までの学習の単なる「復習」ではなく、看護場面で必要な知識を新たに学びます。臨床実習や国家試験はもちろんのこと、就職後も看護専門職の基礎となる知識を自由科目で学び直し、新たな知識を獲得することをおすすめしています。			
科学的根拠に基づき看護を計画的に実践する能力			●口腔健康科学論 ●well-being care	●看護過程実習 ●看護過程論 ●治療援助論演習 ●ヘルスアセスメント演習 ●基礎看護学実習 ●フィジカルアセスメント演習 ●日常生活援助論演習 ●基礎看護技術論演習 ●看護学概論
科学的根拠の基盤			●保健医療福祉行政論 ●選)公衆衛生学Ⅱ ●公衆衛生学Ⅰ	●公衆衛生看護学活動Ⅰ ●公衆衛生看護学概論
ヒューマンスキルの基盤	●人間の生と死 ●人間関係論 ●社会規範論 ●情報リテラシー ●選)医療英語 ●英語コミュニケーションⅡ(応用) ●英語コミュニケーションⅠ(基礎)	●人間の行動心理 ●家族関係論 ●well-being ●人間の成長と発達 ●選)教育方法概論 ●選)まちづくり概論 ●選)健康科学	●統計分析法 ●基礎ゼミナール ●論理的思考法 ●自)看護のための生物学・化学 ●自)看護のための数学 ●自)看護のための物理学	●形態機能学演習 ●形態機能学(生理Ⅱ) ●形態機能学(生理Ⅰ) ●形態機能学(解剖Ⅱ) ●形態機能学(解剖Ⅰ) ●栄養・代謝機能 ●感染免疫学 ●薬理学 ●病態疾病論Ⅴ ●病態疾病論Ⅳ ●病態疾病論Ⅲ ●病態疾病論Ⅱ ●病態疾病論Ⅰ
			●選)社会制度と法律 ●保健医療経済論	
			●選)社会福祉概論 ●選)国際協力 ●選)地域活動と社会貢献	

看護師 国家試験受験資格

保健師 国家試験受験資格(選択)

(縦軸) 文部科学省「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」において、看護実践能力として挙げられた項目を参考に、本学が考える5つの「必要な看護実践能力」を示す。

(横軸) 本学が示す7つの「育成する能力」を挙げる。

(選択・自由科目) 選択科目は「選」科目名、自由科目は「自」科目名で示す。なお、科目名のみ記載している科目は必修科目を示す。

【注記】この図表は、縦軸「必要な看護実践能力」と横軸「育成する能力」が交差する欄に対応する科目を配置したものである。